

2017年1月29日(日)朝10:10  
1月第5回共同主日礼拝式説教

主の降誕節第6、自由交歓会等  
日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：第7の封印について、 創造主に向かっての誓い

聖書：ヨハネの黙示録 10章4～7節

＜口語訳＞

新約聖書396頁

ヨハネの黙示録 10章4～7節

＜新共同訳＞

新約聖書463～464頁

ヨハネの黙示録 10章4～7節

＜新改訳第3版＞

新約聖書487頁

ヨハネの黙示10章4～7節＜塚本訳＞

新約聖書798～799頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰の励ましと神の御子の愛の思い、2章～3章は、7つのアジアの教会への手紙、4～5章は、屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美、6～9章は、「巻物」第1～6巻開封、144,000人の戦いと神の御座の前での大讚美、第7巻開封前の静寂と聖徒を助ける御使の祈り、御使いのラツパと神の裁き第1段、第2段で、人間を害する蝗による神の裁き、人間殺害の4人の御使い解放で、10章1～3節は、強い天使が、神の恵みの啓示とともに神の審判を告げる箇所を導入部分です。
- ◇ヨハネの黙示録10章4～7節は、天より下った強い天使が、創造主に向かって誓いをなす箇所です。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第10章4～7節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録10章4～7節；ヨハネは、第6と第7のラツパの間に天よりの強い御使いが、創造主に向かつての誓いを行うのを見ました。

◇4～7節；塚本訳◆「最早時はない」

「4 (斯く)七つの雷が語った時、私は(それを)書こうとした。すると天から声が(あって、)「七つの雷が語ったことを封ぜよ。それを書くな」と言うのを私は聞いた。

5 すると海と地の上に立っているのを私が見た天使が、天に向かつてその右手を挙げ、

6 永遠より永遠に生き給う者、天とその中にあるもの、地とその中にあるもの、海とその中にあるもの、とを創造り給うた者にかけて誓っ(て言う)た、「(時が迫った、)最早時はない。

7 第七の御使いが吹こうとしているラツパの声の(響くその)日、彼がその僕たる預言者達ちに宣べ伝えた通りに神の奥義は成就

するであろう。」と、ヨハネは神の御座の前の光景を啓示されました。

◇4節；ヨハネは、「七つの雷が語った時、私は（それを）書こうとした。すると天から声（あって、）、「七つの雷が語ったことを封ぜよ。それを書くな」と、「言うのを私は聞いた」と、記録しています。

⇒天からの声が、「七つの雷」が、「強い天使」の大声に呼応して出したことばを書き記すなど禁じられましたので、そのことばを知ることはできず、ヨハネでかが聞いたことばとして口封印されました。

⇒多くの方々の推測では、「神の怒り、さばきの宣告」は、含まれていただろうということです。

◇5～7節；「海と地の上に立っているのを私が見た天使が、天に向かってその右手を挙げ」、「永遠より永遠に生き給う者、天とその中にあるもの、地とその中にあるもの、海とその中にあるもの」とを創造り給うた者にかけて誓つ（て言うた）、「（時が迫った、）最早時はない（時が迫った、）最早時はない」、「第七の御使いが吹こうとしているラツパの（響くその）日、

彼がその僕たる預言者達ちに宣べ伝えた通りに神の奥義は成就する」と、ヨハネは、その誓いのことばを聴いたのです。

⇒「強い天使の誓いのことば」は、①「永遠より永遠に生き給う者、天とその中にあるもの、地とその中にあるもの、海とその中にあるもの」とを創造り給うた者」に向け、②「(時が迫った、)最早時はない」との神のさばきが迫っているとの緊急の内容であり、③同時に、「その僕たる預言者達ちに宣べ伝えた通りに神の奥義は成就する」神の約束の実現という「喜びの知らせ・福音告知」だったということでした。

⇒「強い天使」は、「海と地の上に立っている」ままの姿勢で、ヨハネに告知しています。全世界を支配なさる**神の権威**をもって語る姿勢を堅持しています。

⇒「**神のみことば**」は、厳しいさばきのことばでも、慰めに満ちたことばでも、「**真摯な心**」で聴くことが求められています。

⇒ヨハネは、旧約聖書の預言者のことばを**真摯**に聴きつづけていたので、神は告知できた。

- ⇒「**天使の誓いの預言成就のことば**」の背景には、ヨハネ福音書19:28～30のみことばがあったとOS師は指摘しておられます。
- ⇒ヨハネ19:28～30は、「**神の救いの完成**」を告白して、「**神の御子イエス・キリスト様**」が、死を受け入れて下さった時のみことばです。
- ⇒**神のさばき**は、「ヨハネ黙示録16章」で、具体的には告げられますが、「**神なき人生**」への総決算ですが、同時に、「**神中心・神礼拝**」の人生には、「**罪の赦しと救いの完成**」の時でもあるのです。
- ⇒通常、「**誓いのことば**」は、決断式などの場になされますが、**神の御座の前**では、**勝利者への祝福のことば**として宣告されるのです。
- ⇒ヨハネ19:28～30の引照句は、「ヨハネ16:33」です。
- ⇒ヨハネ16:33;「これらのことを話したのは、あなた達がわたしに(しっかり)結びついていて、平安を保つことができるためである。この世ではあなた達に苦しみがある。しかし安心していなさい。わたしがすでに世に勝っている。」です。

## 結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**ヨハネの黙示録**は、1章1節、「**イエス・キリストの黙示**」とありますように、**神の御子イエス・キリスト様**が、**天使**を通して(1)、**長老・使徒ヨハネ**に与えた「**神の国到来の奥義**」の黙示で、**ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代**に記録されたものと理解されています。
- ◇**ヨハネ黙示録1章**は、**神の御子の再臨信仰の励ましと神の御子の愛の思い**、2章～3章は、**7つのアジアの教会への手紙**、4～5章は、**屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美**、6～9章は、「**巻物**」第1～6巻開封、**144,000人の戦いと神の御座の前での大讚美**、第7巻開封前の**静寂と聖徒を助ける御使の祈り**、御使いの**ラツパ**と**神の裁き第1段、第2段**で、人間を害する**蝗**による**神の裁き**、**人間殺害の4人の御使**い解放で、10章1～3節は、**強い天使が、神の恵みの啓示とともに神の審判を告げる箇所**の導入部分です。
- ◇**ヨハネの黙示録10章4～7節**は、**天より下った強い天使が、創造主に向かって誓い**

をなす箇所です。

- ⇒ **神の裁き**は、「**神に聴き従うことを拒む者**」には、回避できない出来事で、**偶像礼拝とその結果の不品行の罪**には、**神の裁き**が必ず及びます。
- ⇒ 併し、**神の圧倒的な恵み**によって「**神の子**」と呼ばれ、「**額に神の印を受けた者**」と認められ、「**今あるは神の恵み**」と、**神に感謝し、讚美**できることを喜び合いたいとねがいます。
- ⇒ **神の恵み**は、「**強い天使**」が、「**雲、虹、太陽**」で示し、**神の厳しい裁き**の中でも、不変であることを身をもって証言しました。
- ⇒ **神の教会**も、肉眼では見せることができなくても、**神礼拝・執成しの祈り**を通して、**神の恵み**、「**雲、虹、太陽**」、を語りつづけたいと願います。
- ⇒ 「**天使の誓いのことば**」は、「**神のみことば**」に聴きつづけたヨハネへの**祝福のことば**でした。
- ⇒ 私たちも、日々聖書のことばを聴く**神礼拝**から**神のみことばに聴きつづけること**を堅持して生かされたいと願います。
- ⇒ 世の終わりを喜びと希望で迎えたいと願います。